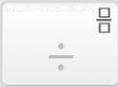


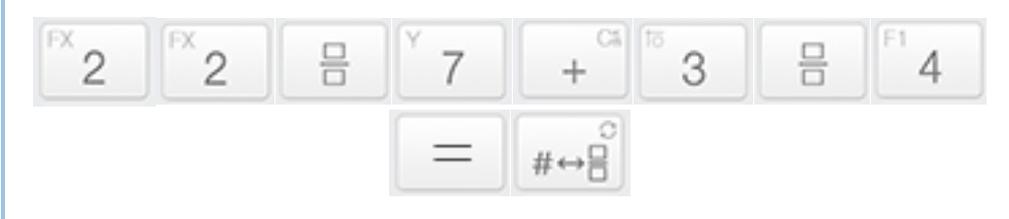


キー	機能
  	分数を入力
	帯分数を入力
  	度:分:秒を入力
	現在の結果を 分数や度の形式に変換

注意: 設定  にある[自動で分数に変換]をオンにすると、自動的に分数の形式にします。

## 例

### 分数・帯分数

↓ 下へスクロールすると、さらに例を見ることができます。



# 例

## 分数・帯分数

CAL DEG  
3.25  
3° 15' 0.00000"

T0 3 °" FX 2 F2 5 = #↔ #↔ #↔

CAL DEG  
2°45'15" - 1°15'  
1° 30' 15.00000"

FX 2 °" F1 4 F2 5 °" GRP 1 F2 5 °"  
GRP 1 °" GRP 1 F2 5 = #↔ #↔ #↔



キー

機能



記法/進数ボックスをポップアップ

Number Conversion Back

**Notation**

3.25E2	SCI
325E0	<b>ENG<sup>±3</sup></b>

**Degree**

325° 0' 0.00000"

**Mathematical**

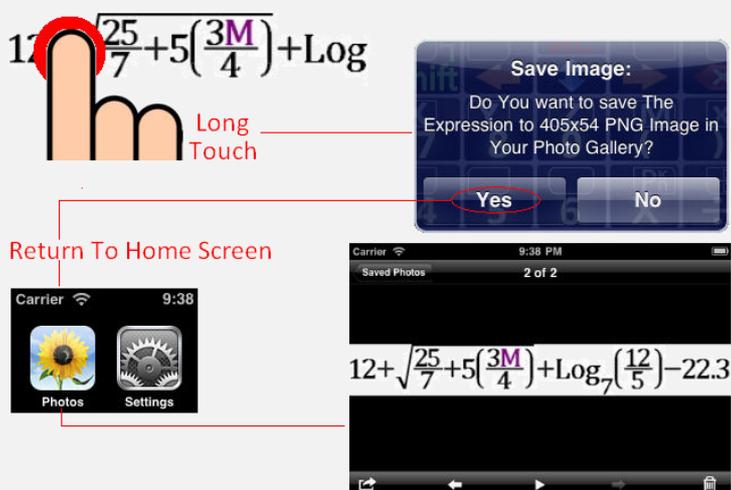
1 01000101	BIN
505	OCT
1 45	HEX

**Digital: Integer 16 Bits**

記法/進数ボックス



キー	機能
	履歴をブラウズ
	式を分割
	取り消し(30 回まで)
	やり直し(30 回まで)
	左結合
	右結合



画面を長押ししてコピー/ペーストおよび書き出し

↓ 下へスクロールすると、さらに例を見ることができます。



## 例

### 式の分割

CAL DEG  
2+3;Res+2  
7



上の式は内部に2つの式を持っています。最初の式が  $2+3$  を計算し、次の式でその結果に  $2$  が加算されます。

注意: Res は最後の計算の結果が入ります。

CAL DEG  
X←5;X+5  
10



上の式は内部に2つの式を持っています。最初の式で  $X$  に  $5$  を代入し、次の式が  $X+5 = 10$  を計算します ( $X = 5$  として)。

### 左/右結合

CAL RAD  
5√□



CAL RAD  
√5

左にある数(または式)を平方根関数の中に入れます。

CAL RAD  
|55



CAL RAD  
|55

右にある数(または式)を絶対値関数の中に入れます。



# 変数（拡張変数）

## 一般的な変数



X, Y, Z, M

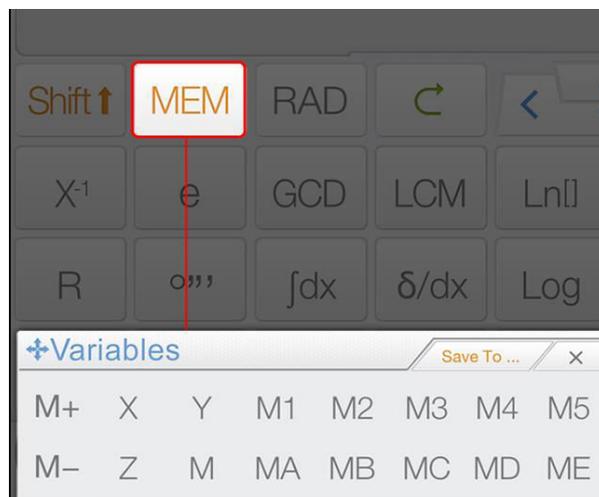
## 拡張変数

### iPhone / iPod



キーボードを右へスワイプ

### iPad



[MEM]キーを押す

## 結果変数 (Res)



最後に計算された結果は Res メモリに収納されます。Res メモリの内容は、新しい計算結果が表示されるたびに更新されます。Res メモリを使うと連続して計算をするのに便利です。

**注意:** すべての変数は行列・ベクトルモードと複素数モードで独立しています。

↓下へスクロールして変数の使い方を見てください。

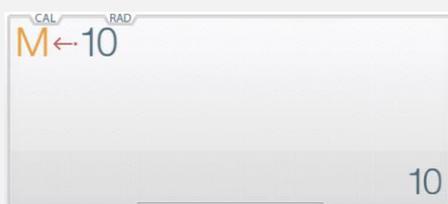




キー	機能
	表示されている値を M に加算する
	表示されている値を M から減算する
	代入操作

## 例

## 代入



M に 10 を代入します。[Shift] + [9] が M キーであることに注意してください。

## 代入 & 式の分割



上の式は内部に2つの式を持っています。最初の式で X に 5 を代入し、次の式が  $X+5 = 10$  を計算します (X = 5 として)。



## 単変数の F(X)



$F_1(X)$

## 変数が2つである F(X,Y)

利用不可能

## 変数が3つである F(X,Y,Z)

利用不可能

## Fx 関数を割り当てる

$2X+5$

手順1:

X を使った式を入力する

手順2:

[Shift] + [2] (Fx キー) を押す

手順3:

割り当てる関数を選ぶ



または

Fx Assignment

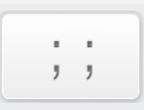
Assign to F1

### 注意:

すべての変数は行列・ベクトルモードと複素数モードで独立しています。

すべての Fx は計算機モードのグラフ Fx 方程式と同期しています。



キー	機能
 OR 	“=”記号を入力
	方程式を解く (普通に押す)
	方程式を 連立1次式に分解する

## 例

### 一般方程式

$$\left(5x^2 - \frac{4}{3}\right) = 3x\left(\frac{x}{2} + 5\right)$$

### 連立1次方程式

$$5(x + y) = 15; y = 8(7 + x)$$



≠	機能
  $\left[ x^2 \right]$ EQN Solve	2次方程式を解く
  $\left[ x^3 \right]$ EQN Solve	利用不可能
  $\begin{cases} Y X \\ Y X \end{cases}$ EQNs Solve	連立2元一次方程式
  $\begin{cases} X Z \\ Y Z \end{cases}$ EQNs Solve	利用不可能

目的の方程式に合わせて適切なモードを選んでください。

↓下へスクロールすると、さらに例を見ることができます。



例

$$2X^2 - 3X + 5 = 0$$



押していくキー



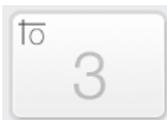
$$X + Y = 2 \text{ \& } X - Y = 3$$



## 注意:

すべての必要な係数を1つ1つ入力してください。係数をタップするか、[↑]または[↓]を押して選択し、値を変更してください。

# 方程式をプロット(グラフ化)する

キー	機能
 または 	現在の式をプロットする <i>注意: 最初に式を入力してください</i>
 OR 	OXY ページを開く

## グラフを表示/非表示

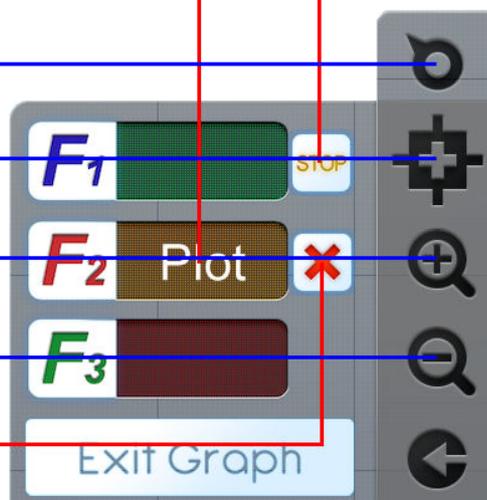
スナップ

移動

拡大

縮小

削除



**注意:** すべてのグラフ  $F_x$  式は計算機モードの  $F_x$  と同期しています。

↓下へスクロールすると、例を見ることができます。



# 例

$$0.25X^2-5$$

**手順1:**

Xを使用した式を入力する

Graph または

Shift↑ + GRP 1

**手順2:**

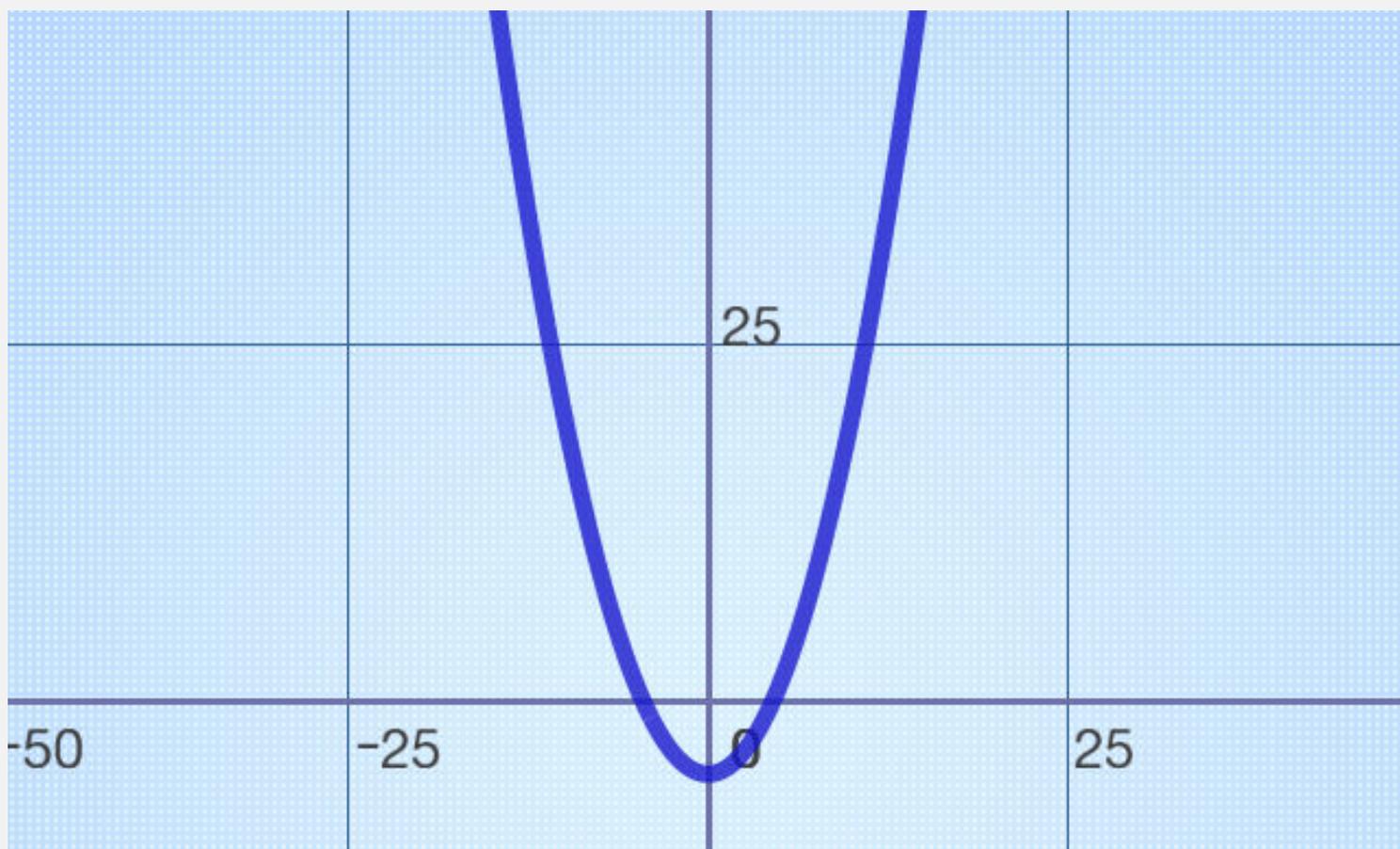
[Shift] + [1] (グラフ化)を押す

Graph Page Action

Plot as F1

**手順3:**

目的の関数を選択する





*Calculator∞*は専門的な%計算をサポートします。これはよくある計算機の計算方法とは異なっています。

$$X\% = X \div 100$$

Example: 150 increase 30% = ?

$$150 + 30\% = 150.3$$



!!! Wrong Input !!!

$$150 + 150 \times 30\% = 195$$



Correct Input



入力された計算操作/関数/式の優先順序は、次の表に従って決められます。同じ優先順位の計算/関数/式の場合は、左から右へ実行されます。

順位	操作/関数/式
1番目	括弧内の式 (…)
2番目	特殊な表記の必要な関数 $\sqrt{x}, \sqrt[n]{x}, \text{Log}_a b,  x , \frac{x}{y}, \int_a^b dx, C_n^k, P_n^k$
3番目	引数を取る関数で、閉じる括弧で終わるもの Sin, Cos, Tan, $\text{Sin}^{-1}$ , $\text{Cos}^{-1}$ , $\text{Tan}^{-1}$ , Sinh, Cosh, Tanh, Log, Ln…
4番目	入力値の後に来る関数 $X^2, X^3, X^n, X^{-1}, X!, \text{°}''''$ , d, r, g, %.
5番目	積算、除算 (x, ÷).
6番目	加算、減算 (+, -).